

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)さいたま市浦和区常盤十丁目	階数	地上12F
建設地	さいたま市浦和区常盤十丁目132番	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	138人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2019年3月26日
敷地面積	1,651 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社安宅設計
建築面積	429 m <sup>2</sup>	確認日	2019年3月26日
延床面積	3,696 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社安宅設計



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 3.2	Q2のスコア = 3.1	Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 4.2	LR2のスコア = 3.2	LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 良好な都市環境を形成し、落ち着いた街並みを維持するよう努める計画とした。また、高い外皮性能を計画し省エネルギーで快適な室内環境を整えるよう努めた。		<b>その他</b> -
<b>Q1 室内環境</b> 外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級4を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えるよう努めた。	<b>Q2 サービス性能</b> 耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内には適切に緑化を施すことで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。
<b>LR1 エネルギー</b> 適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 有害物質を含まない材料を使用するよう努めた。	<b>LR3 敷地外環境</b> 適切な量の駐車場を設置して交通負荷抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)さいたま市浦和区常盤十丁目計画**

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEEさいたま2016ver.1.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00		<b>2.8</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音				<b>1.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1 開口部遮音性能				<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30		
2 界壁遮音性能				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20		
1.3 吸音				-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>1.6</b>	0.35	<b>3.1</b>	1.00		<b>2.9</b>
2.1 室温制御				<b>2.2</b>	0.50	<b>3.3</b>	0.50		
1 室温				<b>3.0</b>	0.63	<b>3.0</b>	0.63		
2 外皮性能		日本住宅性能表示基準5-1断熱等性能等級4		<b>1.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	0.38		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20		
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.3</b>	0.25	<b>3.4</b>	1.00		<b>3.4</b>
3.1 昼光利用				<b>4.2</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.30		
1 昼光率		<共用部分>昼光率2.5% <住居部分>昼光率1.5%以上2.0%未満		<b>5.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.50		
2 方位別開口				-	-	<b>3.0</b>	0.30		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30		
1 昼光制御		<住居部分>カーテンと上階バルコニーによる庇によりグレアを制御		<b>3.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00		<b>3.6</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用		<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38		
1 換気量				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
2 自然換気性能				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.4</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00		<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		100Mbitクラスのブロードバンド設備を整備		<b>1.0</b>	-	<b>4.0</b>	1.00		
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>4.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40		
1 広さ感・景観				<b>1.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画検討実施		<b>4.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50		
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		清掃資材保管場所の確保		<b>4.0</b>	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30	-	-		<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.5</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準3-1劣化対策等級3		<b>5.0</b>	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>2.0</b>	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		壁:ビニルクロス貼り 20年		<b>4.0</b>	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主な用途上位3種のうち、2種以上にB以上を使用し、Eは使用しない。		<b>5.0</b>	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>2.0</b>	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>3.2</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		電源設備地上設置		<b>4.0</b>	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>3.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり	階高2.9m以上	1.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		1.0	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		日本住宅性能表示基準5-1断熱等性能等級4	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.73	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水型便器の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.2</b>	0.60	-	-	<b>3.2</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		床断熱材(スタイロフォーム)	3.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		LGS工法により、躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2削減率 30%	<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明がない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	